

第4節 屋内タンク貯蔵所の基準（政令第12条）

第1 標識、掲示板（政令第12条第1項第3号）

標識及び掲示板については、政令第12条第1項第3号の定めによるほか、第2章第1節製造所の基準第5の例によること。

第2 貯蔵量（政令第12条第1項第4号）

貯蔵最大数量は1のタンク専用室内にある容量の合計量をいう。したがって、指定数量未滿の危険物を貯蔵するタンクが2以上ある場合であっても、その量の合計が指定数量以上である場合は屋内タンク貯蔵所に該当する。

第3 通気管（政令第12条第1項第7号）

アルコール貯蔵タンクの通気管にあっては、大気弁付通気管を設置してもよいものであること。（昭和37年10月19日自消丙予発第108号）

第4 危険物の量を自動的に表示する装置（政令第12条第1項第8号）

政令第12条第1項第8号に規定する「危険物の量を自動的に表示する装置」については、第2章第3節屋外タンク貯蔵所の基準第7の例によること。

第5 注入口（政令第12条第1項第9号、同条第2項第2号）

注入口については、第2章第3節屋外タンク貯蔵所の基準第8の例によること。

政令第12条第2項第2号に規定する危険物の量を容易に覚知することができる場合とは、自動的に危険物の量が表示される計量装置、注入される危険物の量が一定量に達した場合に警報を発する装置、注入される危険物の量を連絡することができる伝声装置等が該当する。（昭和46年7月27日消防予第106号）

第6 ポンプ設備（政令第12条第1項第9号の2）

ポンプ設備については、政令第12条第1項第9号の2の定めによるほか、第2章第3節屋外タンク貯蔵所の基準第9の例によること。

第7 弁（政令第12条第1項第10号）

弁については、政令第12条第1項第10号の定めによるほか、第2章第3節屋外タンク貯蔵所の基準第10の例によること。

第8 水抜管（政令第12条第1項第10号の2）

水抜管については、政令第12条第1項第10号の2の定めによるほか、第2章第3節屋外タンク貯蔵所の基準第11の例によること。

第9 配管（政令第12条第1項第11号）

配管については、政令第12条第1項第11号の定めによるほか、第2章第1節製造所の基準第12の例によること。

第10 電気設備（政令第12条第1項第19号）

電気設備については、電気設備に関する技術基準を定める省令によるほか、第2章第1節製造所の基準第9の例によること。

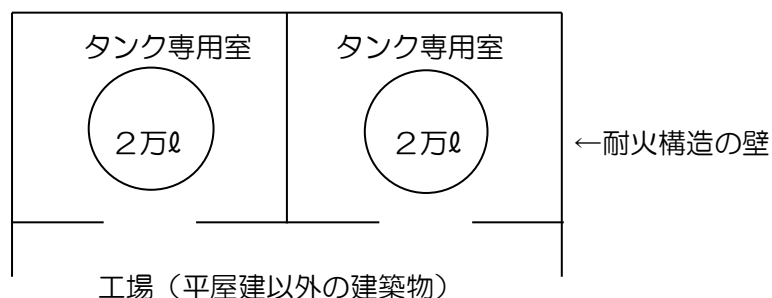
第11 流出防止装置（第12条第2項第8号）

政令第12条第2項第8号に規定する「屋内貯蔵タンクから漏れた危険物がタンク専用室以外の部分に流出しないような構造」については、出入り口の敷居の高さを高くするか又はタンク専用室内に堰を設ける等の方法で、タンク専用室内に収納されている危険物の全容量が収納できるものとする。（昭和46年7月27日消防予第106号）

第12 タンク専用室の隣接設置

隔壁によりタンク専用室を隣接して設置することができる。（消防庁見解、中消会）許可件数は2となる。

例



この場合、隔壁に開口部を設けることはできない。（昭和40年5月4日自消丙予発第83号）